

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	札幌市立西小学校 第3学年 142名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	児童がオリンピック・パラリンピックへの関心や理解を深め、「ふるさと札幌」を愛する心を育てる。
5 取組内容	<p>○指導計画【6時間扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪で何を楽しむことができるのかを考え、雪像作り、雪遊びへと結び付ける。各自、各グループで感じたことをワークシートに記入し交流する。(1時間)</li> <li>・札幌オリンピックミュージアムに行き、オリンピック講師の講話を聴講し、冬のオリンピックに対する理解を深めたり、体験ブースで冬季五輪種目を疑似体験したりしながら雪でどんなことができるのかの理解と関心を深める。(4時間)</li> <li>・活動を振り返り、自分たちの生活へ活かす。(1時間)</li> </ul> <p>○取組の様子</p> <p>矢代氏の講話は、自身がアテネ五輪に出場した際の映像を見せながら、バスケットボール競技について説明した。その中で、子どものうちから様々なスポーツを体験することの大切さを伝えた。また、選手村や入場の様子も説明しながら、オリンピックの理念と意義についても理解した。</p>



ミュージアム内の体験活動では、ボブスレーやクロスカントリーなどの五輪種目に親しんだ。「冬にしかできないスポーツは自分たちの地域にある。」ということに改めて感じていた。

展示されていたユニフォームや道具を初めて身近で見た児童が多く、雪国ならではの工夫がされていたことに驚いていた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢代氏の「スポーツが苦手でも、諦めずに取り組むことで、成果や自信が十分ついてくるよ。」という言葉に児童は感銘を受けていた。学校でもその意味をもう一度話し合い、日常生活にも反映させている。</li> <li>・展示されているスポーツ用具などを見学し、そこには雪国ならではの工夫がされていたことに驚いていた。冬季スポーツの魅力を大いに体感した活動となった。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点</p>	<p>本校は昨年もこの事業に参加したこともあり、総合的な学習の時間への位置付けができた。本活動に参加した児童の様子を見ると、総合的な学習で扱っている「冬」や「雪」の学習の発展として学習することができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における活動までは発展させることができなかった。</li> <li>・オリンピック競技疑似体験を学校でもできるようにする工夫があるとよい。</li> </ul>
<p>9 今後の取組について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しみながら体験できる」「実際の体験者からの話が聞ける」ことが3年生という発達段階にもふさわしいと考えるので、今回児童がまとめたことを、次の3年生へと伝えていく。</li> </ul>